

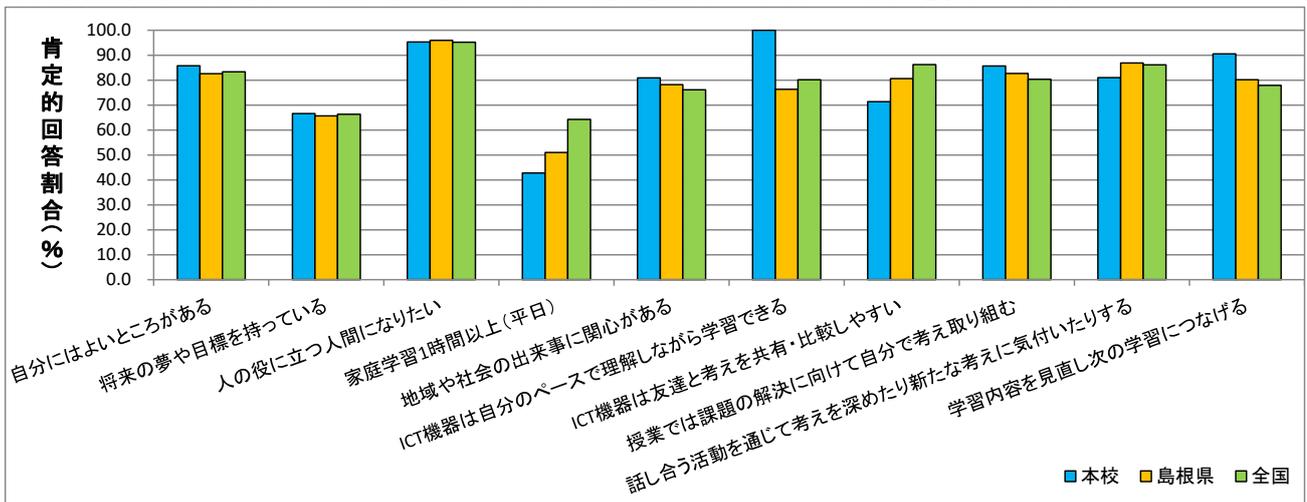
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策(・)
国語	○行書の特徴・漢字の書き取りなど、知識及び技能の正答率が高い。 ○選択問題の正答率が高く、全体的に無回答率が低い。 ●記述問題の正答率が低い。特に、内容を捉えて説明したり、要約したりすることが苦手である。 ●国語に関する関心が、あまり高くない。	・小学校高学年の漢字について、1年生のときから基礎学力テストなどで強化してきた。それを継続する。 ・根拠を明確にして意見を伝える活動を、今後も継続する。 ・条件が複数ある短い作文を書くことで、型を学ばせたい。 ・言葉遊びの要素があるクイズやパズルなどで、導入を工夫する。
数学	○数学への関心が高く、各領域において知識と計算力が身に付いている。 ○1, 2学年での県学力調査の課題対策や、家庭学習を継続的に行うことで、思考・判断・表現を要する問題へも粘り強く取り組む力が身に付いてきた。 ●図形から新しい性質を見いだすことを苦手としている。 ●記述問題は正答率が低く、無回答が多い。	・授業において、生徒が「分かった。」「できた。」と実感できる課題設定や授業展開を工夫し、生徒の興味、関心を高める。 ・図形分野において、生徒が自ら仮定し証明する課題に取り組む。 ・数学的用語を用いたり、自分の考えを指定された条件を満たして記述したりする力を授業やレポートなどを通して高める。

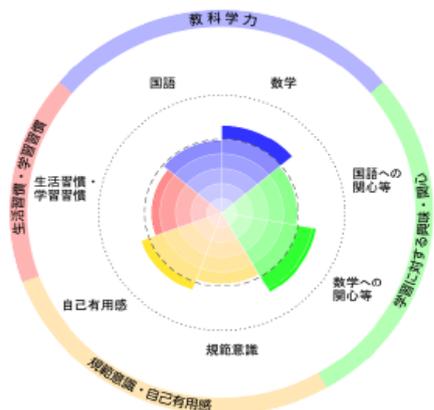
(2) 質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策(・)
質問紙	○ICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる生徒の割合が100%であった。 ○自分の体や健康に過ごすことに関心があり、学校で学んだことを普段の生活に役立っている生徒が多い。 ●自分と違う意見について考えたり、友だちと考えを共有・比較することを好まない傾向にある。	・授業の中で、ICT機器を用いて自分の考えや意見を、人に伝えるような活動を増やす。 ・考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができるような話し合い活動や発問を取り入れる。

(3) 質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができるような話し合い活動を、生徒が主体となって進めていくような取組をしたい。

【受検者数】

21 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

